

1. 調査目的



日本への留学希望者の増加



- ◎今後のオンライン日本語教育コンテンツ開発
- ◎既存のコンテンツの利活用・共有

海外の高等教育機関等の現状・ニーズを把握

- ・既存のコンテンツがいかに広報、活用されているか？
- ・どのようなコンテンツが求められているか？

2. 調査概要

(1) オンラインアンケート調査(2023年8~9月)

対象者	設問数	回答者数
①海外の日本語教員	16問	90名
②海外の学生	15問	341名
③留学生	16問	109名

※留学生受入の重点地域を中心に調査

(2) オンライン・対面インタビュー調査(2023年7~9月)

- ①JF,JASSOの国内機関と海外事務所 計13拠点
- ②東大のGlobal Japan Office/Deskがある海外の大学 計7拠点
- ③東大留学生日本語教育センター

3. 日本留学のニーズと課題

(1) ニーズ

○留学目的

- ・「日本語力を伸ばしたい」
- ・「海外生活や異文化交流を経験したい」
- ※キャリアにも興味

○留学希望者が必要とする情報・サポート

- ・キャリアに関する情報、院入試のための情報
- ・留学初期の生活に関する日本語や情報等

(2) 課題

○EJUの壁(学部正規留学生)

- ・来日後に基礎科目を短期間で学ぶ困難さ
- ・来日前の準備・対策用情報、コンテンツの不足

○日本語を使う機会(海外の学生)

- ・学んだ日本語を生かす場がない
- ・学外で日本語話者と交流する機会が少ない
- ・教材不足、入手の難しさ

4. 海外におけるオンライン学習

海外の日本語教員

学生(海外、留学生)

現状

- ・ほとんどの機関でオンライン授業の実施経験あり
- ・NHKやJF等の信頼性の高い教材の利用が主流
- ・「学習支援Webサイト」、「YouTubeチャンネルなどの動画サイト」を多用
- ・「対面授業のサポートして補助的に使用」する教員多数

- ・無料のコンテンツ利用経験者多数(70%以上)
- ・有料コンテンツの利用経験者は少数(20%程度)
- ・辞書はアプリ、文法学習はYouTubeを利活用
- ・授業外のオンライン授業受講経験者は少数
- ・テキストではなく動画で理解したい

今後

- ・今後も、オンライン授業を必要に応じて取り入れる予定の教員多数(70%以上)
- ・オンラインの部分的利用
- ・LMSの活用

- ・日本語の効果的な学習スタイルは、「対面授業をメインとしつつ、オンライン授業を一部取り入れる」の回答が半数
- ・対面授業での教師やクラスメートのインターアクションを重要視
- ・授業のやり方や学習内容によっては、オンラインでも十分に効果的



オンライン教材・ツールの更なる普及の可能性

5. 今後に向けた提言

(1) 教材・ツール開発にあたっての留意事項・参考情報

○日本語レベルのニーズ

- ・初級~中級のニーズが高い(中上級以上のニーズは低い)

○コンテンツのニーズ

- 【技能別】海外の日本語教員:「聞く」「話す」
- ・学生:「語彙」「聞く」

【具体例】

- ・全体的に漢字教材、学習ツールを求める人が多数
- ・海外の日本語教員:日本文化、最新の日本事情紹介、等
- ・学生:動画・アプリ形式、電子書籍の読み物、等

○各種希望条件

- ・教材の動画視聴時間は「10分まで」
- ・「有料なら使わない」人が最も多い
- ※学生は「有料なら使わない」<「買い切り制(DL販売)」+「定額制」
- ・「定額制」よりは「買い切り制(DL販売)」
- ・「小テストや課題、修了試験」はある方が望ましい

○海外の学生が関心を持ちやすいテーマ、学習スタイル

- ・はやり廃りはあまり関係ない
- ・同世代の日本の大学生、日本の「今」(海外の学生)
- ・協働学習を好む

○日本語教員向け日本語オンライン教材・ツールのニーズ

- ・ニーズは非常に高い
- ・新しい教授法や授業実践など、最新の情報を得たい

(2) 大学が新たに作成すべきコンテンツ

- 入門~初級レベルは既存の教材が充実→**中級以上を対象**
- 大学が得意なコンテンツ→**アカデミックやビジネス等の分野を絞ったコンテンツ**
- 大学にしか作れないコンテンツ→やさしい日本語による**専門講義の動画、大学特有の語彙を扱った教材**
- +**現役の大学生・留学生の声を盛り込んだコンテンツ**(留学促進のツールにもなり得る)

※教材・ツール普及のための留意点

- ・開発後の運用、メンテナンス体制の十分な想定
- ・コンテンツのリアルタイム更新が可能な設定
- ・ネット環境が未整備の国・地域向けに、DL教材の準備をはじめ、提供形態の十分な検討を実施

(3) 海外への広報の工夫

- 教師視点、学生視点**を分けて広報
- 現地言語でのSNS広報**に加え、**ロコミヤ教師会**経由での情報発信、**対面イベント**も重要
- 既存のオンライン教材・ツールの特徴が見分けられる工夫**、**オールジャパンでの教材取りまとめの必要性**

留学促進に向けた踏み込んだ連携協力の必要性:「関係省庁」-「大学」-「関係機関」

J-MIRAI方策 ①留学機会の創出、②広報・情報発信(ウェブサイト等の媒体)、③広報・情報発信(現地での活動)、④入学段階での要件・手続きの弾力化、⑤留学期間中のサポート・大学間での連携

